

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 22 年 3 月 11 日（木）10：00～11：25

場 所 合同庁舎 4 号館 742 会議室

出席者 川端科学技術政策担当大臣、津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、中鉢議員、金澤議員、藤田統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官

議事概要

議題 1．アクション・プランの策定について

< 須藤参事官説明 >

- （本庶議員） ITをアクション・プランの重要課題の対象にするのは、新成長戦略で2つのイノベーションとしてグリーン、ライフを位置づけていることとの関係でも唐突。中身としてITが重要であることはこれまでも議論しているので、それを工夫すべき。
- 主要推進項目をある程度選んで、そこから枝分かれしていくという発想だったが、必ずしもそうではなく、直線的なものが複数走るという形を考えることも可能ではないか。そうすれば、全省庁が何らかの形で参加でき、そういう形で一種の予行演習をやってみた方が、政府全体としてはうまく機能するのではないか。
- （白石議員） 各省庁は、主要推進項目に入ると予算が付くととらえているなど、我々の側と認識に差があるので、きちんと議論していく必要がある。主要政策項目は、複数の省で重複する可能性が高いものを選択するという考え方がある。
- （中鉢議員） ITにはこれまで国家レベルで様々な施策を講じてきており、現在は、PDCAのサイクルで言うと、これからCとAをきちんとやる段階ではないか。アクション・プランの重要課題という位置付けにしろなくても、プライオリティを下げたという認識にはならない。
- （相澤議員） 今年は、グリーン・イノベーション、ライフ・イノベーション、競争的資金について先行的にアクション・プランを作ることとしたい。ITは柱にはならないが重要でないというわけではない。
- （津村政務官） ITについては、IT戦略本部でも議論されており、そちらでカバーされているので、必ずしも総合科学技術会議のアクション・プランの重要課題の中に位置づけなくてもよい。
- （奥村議員） イノベーションの議論に当たっては、2020年までに実現されること、想定される実施者がいることを評価軸とすべき。
- （青木議員） 総合科学技術会議でなければならないのは、複数の省庁をコーディネートするこ

と。1つの省庁でできないことは、放っておくと誰もやらないので、政策項目としては、総合科学技術会議が入ってコーディネートしなければならない度合いが顕著なものを選ぶべき。

(奥村議員) 例えば、グリーン・イノベーションであればCO2の25%削減など、主要推進項目の上位にあたる目標を示すべき。

(本席議員) ライフ・イノベーションについては、切り口によるが、癌の再発率について何%を目指す、診断の効率についてどのくらいを目指すといった個別具体的なものになる。ライフ全体で、例えば、平均寿命をどのくらいにするというのは難しい。産業政策として売上高をどのくらいにするというのも、明確に政策として示すのは難しい。

(津村政務官) 平均寿命は一般にも判りやすいのではないか。

(本席議員) 生きている間、機能がハイレベルであること、QOLが高いことが大事であり、単に生きている期間を長くすることは全く意味がない。したがって、平均寿命を政策目標に掲げるべきではない。

(金澤議員) 注目すべきポイントは、自殺者の数と乳幼児の死であり、少なくとも平均寿命ではない。

(相澤議員) 総合科学技術会議では、単純に健康長寿ということではなく、少子高齢化社会の日本をいかに活性化するかという観点から議論してきた。そういうことを、数値ではなく、もう少し具体的な大目標として示すべきではないか。

(津村政務官) グリーン・イノベーションに比べてライフ・イノベーションはアピール力が弱い。ライフ・イノベーションを成功させるためにも、何か考えられないか。例えば、「80歳元気社会」など。

(中鉢議員) 3月2日には、各省に主要推進項目の例を提示して、演繹的に提案を求めたが、今度は各省からの提案を元に主要推進項目を帰納的にチェックすべき。また、グリーン・イノベーション、ライフ・イノベーションについて、期待される効果、貢献、それに対するコストを総合科学技術会議としてきちんと把握すべき。

(奥村議員) 各省庁に対して、どの施策が2020年までに実用化できるものなのか、改めて問いかけるべき。

(津村政務官) 国家戦略室からも、各省に対して、成果イメージを数字で出すように求めており、当然、我々も各省庁に聞くべき。

(本席議員) 下(各省からの提案)から上がって来るものを踏まえて、上位概念(主要推進項目)を決定してもいいのではないか。

(相澤議員) 今までのタスクフォースの進め方を変える話であり、また改めて議論させていただきたい。

議題2．地域のご意見を聴く会(科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 大阪開催)について

<加藤参事官説明>

- (本庶議員) 岡山大学・松井教授を呼んで、臨床研究に携わる若手を育成する取組みについて説明していただいたらいいのではないかと提案させていただいた。
- (加藤参事官) 岡山大学・松井教授をお呼びする方向で進めたい。
- (金澤議員) 藤田保健衛生大学・宮川教授はどういう立場で来てもらうことになっているのか。
- (加藤参事官) 科学・技術研究についての提言等を取りまとめているので、そういったことを踏まえて御意見を伺いたいということでお呼びしている。
- (津村政務官) 地域のメディア、専門誌にも取り上げられるようにしたい。
- (本庶議員) こちらからメッセージを出すようにすべきであり、御要望、陳情の場になるのでは意味がない。
- (金澤議員) この人選では陳情の場になってしまう可能性がある。説明者にはきちんと言っておく必要がある。
- (津村政務官) 会議のタイトルが固有名詞としては長すぎるので、サイエンスコミュニケーションでもいいし、科学・技術対話でもいいし、愛称のようなものをつけられないか。
- (相澤議員) 会議の名称については工夫してほしい。

(以 上)